

村と戦争

—兵事係の証言—

黒田 俊雄編

富山 桂書房発行〈地方小出版流通センター扱
い〉 1988.12

242P 19cm ¥1648

「小さな村に大きな戦争がやってきた」初公開！ 日本で唯一まとまった徴兵関係文書」と本書の帯に書かれているごとく、太平洋戦争下における徴兵事務に関する文書記録を紹介したものである。

富山県東砺波郡旧庄下村（現砺波市）において「兵事係」としてその任にあたった出分氏が、村の人々の個人の軍歴を中心にした文書群を、貴重な記録としての認識のもとに、敗戦直後の軍の指示にもかかわらず、〈決死的〉な覚悟で保存していたもので、『庄下村史誌』〈1979.11〉にも発表されているものである。

本書は二部構成になっており、第一部には出分氏の体験談をもとに、村のこと、兵事係のこと、徴兵検査の実際、動員のしくみ、敗戦の日、兵事関係の書類の避難、戦後処理などを、聞き取り・談話のかたちでまとめられている。

第二部には、「兵事係の証言」として出分氏が記述したものを黒田氏が編集したもので、兵事関係資料を残した理由、兵事係の悲痛な思い出、村当局者の兵事に対する率先垂範について、等々について述べられ、ここに徴兵制度が実際にどのようなかたちで実施され処理されたかが、実際の文書名や陰影版をあげて記述されている。本書の特色は、担当者の体験談のみではなくその裏付けともなる関係文書に拠っていることにある。このような文書を一個人が保存することは大変なものであったであろう。巻末には資料目録と解説が、また「赤紙」の複製も付されている。原文書は、現在砺波市立図書館に寄贈され保存・管理されておりマイクロ・フィルム化もされて、公開されているとのことである。本書は徴兵

制をとおして戦争とは何かを考えることのできる1冊でもある。

佐藤 勝巳・戸田市教育委員会